

2022年度 看護部年間教育計画

- 教育目的・・・病院・看護部の理念に基づき、地域社会の期待する看護を目指し、質の高いサービスを提供できる看護職を育成する。
 教育目標・・・1. 看護の専門知識・技術・態度を習得し、さらに積み重ね、安全かつ質の高い看護実践能力の向上を目指す。
 2. 看護倫理に基づいた行動がとれるような豊かな感性と人間性を養う。
 3. チーム医療における看護職の役割を認識し、自律した行動力を養う。
 4. 看護実践に活用できる研究能力を養う。
 5. 常に看護観を発展させ、主体的に看護が実践できる能力を養う。

湘南東部総合病院

カテゴリー	対象者	目的・到達目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実務Ⅰ	新卒 入職～1年	目的 1. 看護チームの一員としての役割を認識する。 2. チームメンバーとしての職責を果たすために必要な能力を獲得する。	①新人オリエンテーション(4/1・4) 看護部概要、教育システム、 接遇、倫理、医療安全 ②臨地研修(4/5～4/8) ③褥瘡の基礎知識(4/14) ④記録・看護必要度、感染管理、目標管理(4/21) ⑤看護技術、基準手順 看護技術習得(各部署)	③ME機器の使い方 (ポンプ・シリンジポンプ)(5/12) ④夜勤オリエンテーション 看護必要度 (5/26)	3か月フォロー ～BLS～ (6/23)	コミュニケーション ～基礎～ (7/21)	メンバーシップ 報告の仕方(SBAR) (8/18)	6か月フォロー リフレッシュ研修 (9/15) ナラティブ ガイダンス (9/15)	多重課題 (10/6)	ACLS (11/7)	9か月フォロー 看護倫理 (12/8)	ナラティブ 提出 (1/15)	ナラティブ 発表 (2/9) プリセプター評価表	1年フォロー ～1年の振り返り～ (3/9) 技術チェックの 不足部分補う研修
	既卒 経験1年未満	目的 1. 自立した看護実践を行うための知識・技術を身につけることができる。 2. 安全で確実な看護を実践できる。 3. 職場環境に適応し、よりよい人間関係を築くことができる。 4. 看護チームの一員としての自覚を持ち、積極的に看護に取り組むことができる。			技術チェック①			技術チェック②			技術チェック③		技術チェック④	
実務Ⅱ	卒後 2年目	目的 1. 看護チームにおける自己の役割を認識する。 2. チームメンバーとしての職責を果たすために必要な能力を獲得する。					看護過程Ⅰ (8/25)	メンバーシップⅡ ～自己分析～ (9/29) 技術チェック②	看護過程Ⅱ (10/13)				ナラティブ提出 (2/15) リーダーシップⅠ 理想のリーダー像 (2/16) 技術チェック③	ナラティブ発表 (3/2) 看護実践能力の到達度評価
	卒後 3年目	目的 1. 個別性のある看護を実践できる。 2. 日々発生する問題を解決する手立てを見出すことができる。 3. チームメンバーと円滑な人間関係を築くことができる。		看護記録 看護必要度 (5/19)	目標管理(PDC) (6/2) 技術チェック①	コミュニケーションⅠ ～アサーティブ～ (7/7)	リーダーシップⅡ ～入院支援～ (8/4)		看護倫理 (11/10)	人工呼吸器装着中の看護 (12/15)	プリセプター研修 (1/19)	看護観提出 (2/28) リーダーシップⅢ カンファレンスの方法 (2/2)	看護実践能力の到達度評価	
実務Ⅲ	卒後 4～5年目	目的 1. 医療チームにおける自己の役割を認識する。 2. 指導者層としての職責を果たすために必要な能力を獲得する。		看護記録 看護必要度 (5/30)	目標管理(PDC) (6/9) 技術チェック①	コミュニケーションⅡ ～コーチング～ (7/14)		技術チェック②	リーダーシップⅣ ～問題解決～ (10/20)	看護倫理 (11/17)			技術チェック③	看護実践能力の到達度評価
	臨床指導者 教育担当者	目的 1. 職場目標を達成するためのより良い看護が実践できる。 2. 日々の業務の中で、効率的な運営を図ることができる。 3. 業務上発生する問題の解決に向けて、上司・看護者へ働きかけることができる。 4. 円滑な人間関係を築きながら、チームメンバーに教育的に関わることができる。 5. 看護実践の役割モデルとしての職責を自覚し、自己の成長を図るための課題を明確にできる。	臨床指導者研修(学校と) 実習指導者会議 外部研修 (臨床指導者講習会)				臨床指導者研修 (学校と)							
実務Ⅳ	卒後 6年以上	目的 1. 医療チームにおける自己の役割を認識する。 2. 指導者層としての職責を果たすために必要な能力を発揮できる。			目標管理(PDC) (6/16)				リーダーシップⅤ ～マネジメント力～ (10/27)	看護倫理 (11/24)				
		目的 1. 看護チームの推進力となり看護の質の向上に貢献できる。 2. 社会の変化や医療の進歩に応じた看護が実践できる。 3. チームメンバーに教育的な関わりができる。 4. 看護管理能力を身につけ中堅としての役割を認識して行動できる。 5. 自分の目指すキャリアアップに主体的に取り組むことができる。	外部研修 (ファーストレベル) (セカンドレベル) (認定看護師)											
看護研究	研究 対象者	目的 1. 看護研究の意義を理解し、実践することにより看護の質の向上を図る。 2. 看護研究の成果を実践の場で患者ケアに活用する。	看護研究 「研究概論」 (4/25)						看護研究 「論文の書き方 プレゼンテーションの 方法」 (10/7)			院内研究発表会 (1/26)	論文提出(2/28)	論文集発行
		目的 1. 看護研究について理解する。 2. 看護の事象から生じる問題を研究的視点でとらえることができる。 3. 解決したい問題を科学的・理論的に考察で論証することができる。 4. 文献の活用ができる。 5. 看護研究のプロセスと成果を通して知識を深めることができる。 6. 看護研究の成果後実践現場で活用できる。			看護研究 相談・実施 (6/30)		看護研究 相談・実施 (8/31)		看護研究 相談・実施 (12/1)					
管理者 研修	副主任	目的 1. 副主任としての役割を理解し、行動することが出来る。 目標 1. 看護実践者の第1人者として、ロールモデルになる。 2. 主任看護師を補佐し、業務上の問題解決に参画する。	主任副主任研修 (毎月第4金)											レポート提出
	主任	目的 1. 看護課長と共に、看護単位の目標達成に向けた自己の役割を認識する。 2. 主任看護師の職責を果たすために必要な能力を習得する。 目標 1. 教育指針 目標1～7												レポート提出
	課長	目的 1. 看護部の方針と目標を理解し、看護単位の目標達成に向けた自己の役割を認識する。 2. 看護課長の職責を果たすために必要な能力を習得する。 目標 1. 教育指針 目標1～7	課長研修(毎月第4水)											
看護補助者		目的 看護補助業務としての患者介護について必要な知識・技術・態度を習得する。			感染対策 (6/3・7)						災害対策 (11/4・8)			
		目的 1. 業務を遂行する上で必要な基本的な知識・技術・態度を身につけ、安全で確実な介護業務を実践できる。 2. 看護チームの一員としての自覚を持ち、メンバーシップを発揮できる。	介護技術習得(各部署)											

認定看護師	全職員	目的	認定看護師会にて実施											報告会
災害対策	全職員	目的 1. 社会の動向に沿った質の高い看護サービスが提供できる。 2. 各領域における看護の専門性を理解し、質の高い看護を提供できる看護師を育成する。	災害支援ナースと協働					災害対策(基礎) (9/8)				災害対策 (2/3)		
医療安全		目的 1. 看護に必要な専門知識を深め、実践に役立てる事ができる。 2. 医療看護の動向を知り、視野を広げることができる。 3. 組織的な活動を主体的に実践できる。	医療安全と協働で実施			医療安全(基礎) (7/28)				医療安全 (12/22)				
感染管理			ICNと協働で実施		感染対策講習会 (6/28)				感染対策講習会 (11/29)					